

熊取町議会委員会会議録

議員全員協議会

平成29年6月16日開催

熊取町議会

目 次

〔議員全員協議会（6月16日）〕

自転車駐車場の今後の運営について 1

議員全員協議会

月 日 平成29年6月16日(金曜)招集

場 所 熊取町役場北館3階大会議室

出席議員	1	番	文野慎治	2	番	重光俊則
	3	番	浦川佳浩	4	番	阪口均
	5	番	坂上昌史	6	番	鱧谷陽子
	7	番	二見裕子	8	番	渡辺豊子
	9	番	服部脩二	10	番	矢野正憲
	11	番	佐古員規	12	番	河合弘樹
	13	番	江川慶子	14	番	坂上巳生男

欠席議員 なし

説明員	町	長	藤原敏司	副町長	中尾清彦
				企画部理事	
				兼シティプロモーション	明松大介
				推進課長	
				企画部理事	東野秀毅
				兼財政課長	
				総務部理事	林利秀
				都市整備部長	泉谷徹
				人事課長	道端秀明
事務局	局	長	北川雄彦	書記	藤原孝二

案 件

1) 自転車駐車場の今後の運営について

議長(坂上巳生男君) 皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、議員全員協議会にご出席を賜り、ありがとうございます。

なお、本協議会には、町長ほか関係職員の出席をいただいております。

ただいまの出席議員は14名全員であります。定足数に達しておりますので、ただいまから議員全員協議会を開会いたします。

(「13時30分」開会)

議長(坂上巳生男君) 本日の案件は、自転車駐車場の今後の運営についての件1件であります。

なお、発言をされる方は、必ずマイクを使っていただきますようお願いいたします。

それでは、案件1、自転車駐車場の今後の運営についての件を説明願います。山原道路課長。

道路課長(山原栄次君) よろしくお願ひします。自転車駐車場の今後の運営についてご説明させていただきます。

1つ目の経緯でございます。

本町の駐輪場につきましては、過去に町管理の駐輪場として6カ所運営しておりましたが、維持管理費の軽減や駅前周辺的美観を図るため、平成10年、11年度に公益財団法人自転車駐車場整備センターと現在駐輪場として利用されている北、東、南自転車駐車場において自転車駐車場施設の設置及び運営協定書を締結し、整備センターにおいて順次自転車駐車場建設及び管理運営が行われてきたものでございます。また、協定書とあわせて締結された覚書においては、おおむね15年間経過

後に町へ施設を無償譲渡できる内容のものとなってございます。

今回、整備センターより、3自転車駐車場において供用開始後15年が経過したこと及び平成26年度の施設建設費に係る元利償還までの間、年間約3,000万円の赤字を計上し、累積赤字は5億円を越す金額になっていることから、整備センターによる現状での継続した管理運営が困難なため、自転車駐車場の今後の運営について協議依頼があったものでございます。

2つ目の現状でございます。

平成29年3月時点の自転車駐車場の利用状況ですが、熊取南自転車駐車場は1,620台に対し838台の利用で利用率は51.7%、熊取東自転車駐車場は763台に対し210台の利用で利用率は27.5%、熊取北自転車駐車場は1,054台に対し223台の利用で利用率は21.2%、3自転車駐車場全体では3,437台に対し1,271台の利用で、利用率は37.0%となっております。

次に、自転車駐車場の運営状況でございますが、平成27年度以降の運営状況は、元利償還金は既に完済されており、3自転車駐車場全体では若干の黒字経営となっておりますが、北、東の2自転車駐車場につきましては単体で見ますと依然として赤字経営が続いている状況でございます。

3つ目の方針でございます。

3自転車駐車場のうち北自転車駐車場は、利用率が一番低く、赤字経営が今後も続く見込みのため、平成29年10月末をもって自転車駐車場を閉鎖し、整備センターの負担において平成29年度中に施設を除却した後、土地を町へ返還するものいたします。東、南自転車駐車場につきましては、引き続き、整備センターが平成30年度以降当面の間運営するものいたします。返還後の土地につきましては、今後全庁的にその有効活用について検討いたします。

4つ目の今後のスケジュールでございます。

平成29年7月から平成29年10月末において、北自転車駐車場閉鎖に伴う利用者周知を広報、ホームページ、また自転車駐車場等で行います。29年10月末に北自転車駐車場を閉鎖いたします。29年12月から30年2月において、北自転車駐車場の除却工事を整備センターにおいて行います。平成30年3月に北自転車駐車場の用地の返還を受けるものでございます。

説明は以上でございます。

議長（坂上巳生男君）ただいま説明がありました本件について、質疑があれば承ります。質疑はありませんか。重光議員。

2番（重光俊則君）先ほどご説明がありましたけれども、年間約3,000万円の赤字を計上しているということですが、これ、南、東、北のそれぞれについて経費が幾らかかって幾ら収入が出ているか、その辺を説明していただけますか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）経費の配分につきましては、整備センター自体が全国展開されている団体でございます。熊取町単体というか、熊取町としての経費というのは集計されているということで我々聞いておりますが、細かい単独での経費の配分というところまでは、我々としては求めましたけれども、資料の提示というのはいただけでございませぬ。

ただ、大きく目安として赤字か黒字かということの説明は受けてございまして、先ほど説明させていただきましたように、3駐車場全体でいきますと単年でいきますと若干の黒字にはなっているということで、これにつきましては、施設の建設費に係る元利償還が26年度で終了してございまして、27年度以降について単年では3駐車場全体では若干の黒字ということで報告は受けてございます。ただ、そのうち個々の赤字か黒字かということにつきましては、南駐車場につきましては黒字で経営できているということでございますが、東と北につきましては依然として単年でも赤字の経営になっておるといふ報告は受けてございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君）重光議員。

2番（重光俊則君）元利償還までの期間というのはわかるんですが、元利償還終わった後、じゃ全体と

して駐輪場を預かることによる収益というのは幾らかというのわかりますか。自転車を預かることによって得られる売り上げといいますか収益といいますか、それはわかりますか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）27年度の実績でいきますと、全体の収入につきましては約3,900万円、支出につきましては約3,800万円程度ということで、全体としましては約100万円程度の黒字というふうに報告を受けてございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君）渡辺議員。

8番（渡辺豊子君）最初に平成10年、11年のときに、もう15年経過した後には施設を無償譲渡するという、そういった協定書というものを締結しているという説明だったと思うんですが、その中で今回まださらに5年間継続するとなったというのは最初の協定書の内容と違うと思うんです。その辺のところの説明をお願いします。なぜそうなったのか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）15年経過後に町のほうに無償譲渡できるということで項目は定めてございまして、ただ、これについてはできるという条項になってございますので、要はその時期については協議するというようなことになってございます。

それと、今回整備センターから協議がございました内容といいますのが、先ほども説明しましたように、単年でいきますと若干の黒字にはなっているんですが、まだそれまでの累積赤字というのが約5億円ということですので、通常考え方といいますのが、整備センターで建設、また運営をしていただいて、約15年間で、そのももとの費用も含めて要は収益を得た中で、ここで採算をとった段階で自治体のほうに無償譲渡するというのが基本の考え方で、そういうふうに覚書のほうで定めてございます。

ただ、現状まだ累積で5億円ほどということで、まだ回収できておりませんので、本来ならこのまま整備センターのほうで継続してということになるかと思いますが、ただ、今の見込みでいきますと、ももとの累積赤字を回収するまでにまだまだこれから年月というのはいかかってまいりますので、整備センターとしても累積赤字は整備センターの負担ということで一旦線を入れて、今後の整理について協議があったというところでございます。

その中で、例えば町がそのまま引き受けたとしても、若干の黒字ではございますが今後まだ維持管理費というのがどんどんかかってまいりますので、その中で統廃合というのを検討させていただいて、北を廃止して、今、北でお使いのいただいている方はできるだけ東や南に移っていただくことで、維持管理費は低減できますし、要は収益は上がるという方向で協議を調えさせていただいて、一定それで今後、今回北のほうは廃止させていただくということで協議が調ったところでございます。

ただ、それにつきまして、若干まだ整備センターでは累積の赤字というのはずっと抱えたままでございますので、それについても若干、もうしばらくの間は整備センターで運営を行って、若干でもちょっと収益を上げた中で回収して、その後、町のほうにまた無償譲渡という協議をしたいというところで協議が今回調ったところでございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君）渡辺議員。

8番（渡辺豊子君）赤字がある分まだまだ穴埋めしていくというので、5年間あとは継続していく。一応当面の間というのが5年間程度ということで、継続をされるという内容かと思うんですが、建屋を建てる分の元利償還につきましては終わったと。でも後、運営する中での赤字がまだあるんだというご説明かと思うんですけれども、今、重光議員が質問された中で、どんな運営、収支の状況はわからないということでしたよね、全て含めてだったので。その中で5億円の赤字になっているというのはいか資料をもって説明していただいているんでしょうか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）一定、資料については整備センターから示していただいたものはございます。

ただ、前提として、先ほども言いましたように、全国で展開しているということと熊取町単体でのということで収支というのは出せるということでございますので、一応我々としてもざくっとした数字しか説明は受けてございませんが、一定報告を受けた中で、年間約3,000万円の赤字がずっと計上されてございます。それは元利償還分とかも含めての分ということになってございますが、その中で、26年度で元利償還は終わってございますので当然、出が減るということになりまして、単年度でいきますと先ほど説明させていただきましたように約100万円程度の黒字になってございますが、それまで年間約3,000万円ずつぐらいの赤字がずっと計上されてございますので、その累積が5億円程度ということで報告は受けてございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君）渡辺議員。

8番（渡辺豊子君）ちょっとその辺の数字がざくっとしているのわからないところがあるんですけども、熊取町の単体として5億円の赤字というところがちょっとわからないもので、またそういうものをちゃんと示していただけたらなというふうに、疑っているわけじゃないんですが、その辺のところ、元利償還は終わってるんやけれども、ずっと私たちにすればすごく稼働してて、南だけが一番稼働率がいいのかもわからないんですが、その中で赤字が続いているという中で、その赤字が続いているのにセンターが継続させてもらいたいと言っているところがちょっとどうなのかなと思って、熊取町とすれば、土地も全て無償で提供しているわけですね。東だけが町民の土地なので、その分の土地代はいただいているかもしれないんですが、全てそのほかは無償で運営していただいているところなので、この運営につきまして、少しでも熊取町の益に入ってくる、入となってくる分があればなということを思います。

この分、熊取町に全て無償譲渡できたときには、熊取町が運営していたときに、今100万円益があると言っていました、その分が熊取町の収入として入ってくるのであればというふうに思うわけなんです、その辺のところの話し合い、協議というのがちょっとまだ理解できないところなんです。

議長（坂上巳生男君）泉谷都市整備部長。

都市整備部長（泉谷 徹君）まず、費用の件なんです。3駐車場がございますけれども、管理費とかいうのが一括して計上されておりますので、どの駐輪場で何ぼ経費がかかっているというのがわからないというのがセンターの言い分でございます。ですから、熊取町は3駐輪場合わせて入と出というのはわかってございます。それに対して今、課長が答えさせていただいたように、赤字になっているのもわかってございます。それらの表は手元にはございます。

ただ、センター側も、もしか出すにしても経費を3つに案分するだけの話で、実際にかかっている費用というのは自分らもそこまでは把握されていないんやと。センター自身が違う業者さんにそこから発注されて管理運営を任されている、管理をやっているというところで、一括してその人の配分というのは、その業者が忙しいときはそっちに人をやったりこっちにやったりということでやっていますので、明確に一つの駐輪場に幾ら経費がかかっているというのを出すのは難しいと。ただ、全体しての額はつかんでいきますので、それはご提示できますというのがセンター側の答えでございました。

そんな中で、赤字につきましては毎年3,500万円ぐらい、やっぱり平成11年、12年というのが稼働率は高うございます。それで、13年ぐらいからどんどん収入は減ってきてございます。この辺はもともと大学とかいろいろところが最初は使っていたけれども、バスとかに乗りかえていたり、何か原因がございまして平成13年からやはり収入も減ってきてございます。そんな中で、累積として5億円今出ているというところでございます。

それで、建屋につきましてはセンター側の財産として建ててございます、最初のときに。それで、

その建屋を建てた費用がございまして、収入見込みがございまして、その差額について町のほうが一定負担をしているという経過はございます。その中で運営をしていただいているということで、駐車場の運営につきましてはやっぱり行政がやっていくべきことで、不法駐輪とかそういうのがなくなるように、その当時に国の施策としてこのセンターが設置されて、各市町村の駐輪場のないところに国の費用も充てた中でやっていきたいと思いますかというところで始まった事業でございまして、それで今回、上物については全てセンターの財産となっております。

それで、こんな5億幾らの赤字を抱えた中で、今回、北駐車場の上屋につきましてはセンターの費用をもって撤去していただくというところで協議は成立したんですけども、これにつきましては、全国的に上屋を潰していただいて市町村がもとの平地にやっていただくというような前提の話ではなくて、もともと3駐輪場が全国的にも必要であると、熊取町に3つ、よその市町村には5つとか、必要であるというところからスタートしていますので、上屋を潰さないというのが大前提の当初の協定でございました。そんな中で、権利的にはセンターのほうにやはりございまして、センターのほうで上屋を潰すべきであるということで、この協議には長い日にちがかかったんですけども、最終的には、全国でも珍しいけれども、センターのほうで潰させていただくというところまでご返事をいただいております。

それらも含めると5億5,000万円を超えるような累積赤字になってくるというところで、もう少し一定の期間だけでもセンターのほうで運営をさせていただきたいというところで、町のほうに申し入れがあったところでございます。

15年というのも目安でございまして。よそでは15年以降もセンターがやっているところも多々あります。やはり市町村が入りますと人件費もかかりますし、いろんな経費、市町村の持ち出し経費もかかってくるというところで、ほかの市町村ではまだそういうところも多くあります。特に、黒字経営をやっているところはセンターは率先して自分のところでやっていきたいというところで、申し入れをやっているというところも聞いてございます。

その中で、今回センターにつきましては、東も含めて南と東の2カ所になったところで運営形態を見直していきたい、人の配置とか新しい機械を入れるとかいうので運営形態を見直して経営の状況も見直した中で、もう少し黒字ができるように状態を変えていきたいというところもございまして、町としましては、議員おっしゃられますように、早い段階で引き取って、黒字であればその分を収入でいただきたいというところもあるんですけども、その辺の運営の状況を改善していただいて、黒字がもっとできるような状況であれば今のセンターのノウハウを生かしていただいてそんな状況にやっていただいた後に、今のところはまず5年という目安を持ってございましてけれども、5年後に引き取らせていただいて、町が運営して黒字経営でやっていければなというところで考えてございます。

以上でございまして。

議長（坂上巳生男君） 渡辺議員。

8番（渡辺豊子君） そしたら、一応当面の間というところについての5年と言うてますが、その辺の協定書というんですか、きょう運営協定書、また一応そういったものもちゃんと交わすんですか、5年という期間を定めた。

議長（坂上巳生男君） 山原道路課長。

道路課長（山原栄次君） 今回協議が調った分につきましては、きょう皆様にご説明させていただいた後に、変更になる点の覚書等は締結するというところで整備センターとは協議を行っているところでございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君） 重光議員。

2番（重光俊則君） 今のお話を聞きますと、非常に理解に苦しむところがたくさんありますね。整備センターが駐輪場を建設して、その費用を出して自分とこでそれを支払いながらやってきたというこ

とで、今5億円の赤字ということは年間3,000万円の赤字をやってきていると。ただし、収入が3,000万円あるとしたら収入がほとんどない状態でやってきたということになりますけれども、その説明をするに当たっては、施設投資にどれぐらいお金がかかって、何年でその利子が幾らかかって、経費が幾ら、全体として、本当はこれ個々にわかっているはずなんだけれども、わざと出していないだけの話だと思います、管理していないかね。こんなずさんな管理は本当はないですよ。

そういうところで、全体としても年々どれだけの経費が出るんだというのを出せるはずなんですよ。そういうのも出してなくて、とにかく今5億円赤字がありますよ、あと100万円今プラスになりますということ、一つなくした後100万円プラスになりますから、それであと5年間やらせてください。そうすると100万円返したとしても5億円のうちの大部分は負債のままですよ。それは町が見てくださいということで、これ、物すごく虫がいい話で、結局採算性も何もなく整備センターに仕事をやらせているわけですね。町がやらせたということになりますね。

だから、最初の計画段階で整備センターにどういう計画で委託して、15年間で5億円赤字になる運営計画だったのかというのは、当初の計画をまず示していただいて、実際どれぐらいの費用で施設を建てて、どれだけの経費をかけてあれがどれだけの収入を得て今の5億円になったのかと、これは次の契約をやる前に町として明確にする責任があると思うんです。ただ全国的な設備ですからという、そんないいかげんな運営はないと思いますよ。めちゃくちゃですよ、これは。めちゃくちゃに公費を使わせてきたということじゃないですか。当初のそれをちゃんと説明しないと、いやあと5年間やったらどうなるのということもちゃんと説明しないとおかしいと思うんですよ。

本当に100万円しかもうけにならない、これだけの駐輪場で3,800万円の売り上げがあるとしたら500万円の人6人働けるわけですよ、常時。そういう状況だったら、パートの人とかを入れたらもっともっと人件費は下がりますよ。そういう状況で3つをぎりぎり運営しているというのが正しいかどうかを住民に検証できるデータを示していただかないと、次の契約というのは認められないと思うんです。その時点で熊取町は幾ら負担せなあかんのか、本当にこの整備センターは全国展開しているから、1町に対してはそういう数字を出せないというのは、それは非常に問題がある経営やと思いますよ。最初の契約時点がそうなっているのであれば町の責任でしょうし、そういう経理的な面をきっちり明確にできるんでしょうか。

議長（坂上巳生男君） 泉谷都市整備部長。

都市整備部長（泉谷 徹君） 先ほど課長がご説明させていただいたように、27年度の収入が3,910万円程度、支出が3,810万円程度で、約100万円程度となっております。これは11年度から全て資料としてございます。その合計が累積赤字として5億100万円ほど今現在出ております。

この間に、町は一番最初の建設当時に負担はしてございます。ただ、そのときの計算につきましては、建設事業費で約6億4,500万円、それで収入が4億8,000万円、9,400万円が町の負担、それと、国からの補助金が7,000万円という内訳になってございます。その後の負担というのは、町のほうは一切してございません。土地の借上げも全てセンターが支出してございます。当初、建設負担金を町が負担してございます。それだけでございます。今後も、運営をやっていただく上では町の負担は一切ございません。

なぜセンターがこれだけの赤字を抱えてやっていけるかとセンターにも確認してございます。センターとしては、全国展開している中で特に都市部ではかなりの黒字が今も出ています。関東、また大阪市内とか、都市部ではかなりの黒字経営になっていて、センター全体とすれば運営は成り立っていつていると。これも2年ぐらい前でしたら、まだまだセンターは赤字のところについても、やっぱり地元自治体が赤字運営の駐輪場を引き取ってもらわれへんということで、今後も続けてやっていきますというご返事はいただいていたんですけども、やはりセンターの内部でここ1年ぐらいで急に、15年たって特に赤字のところについてはもう地元に戻せというような方針を打ち出されたみたいで、急遽協議に入ってこられたということでございます。

以上でございます。

議長（坂上巳生男君）重光議員。

2番（重光俊則君）いろいろ説明されておりますけれども、いずれにしても、町の負担も6億円あったということであれば、事業開始から町がどれだけお金を出して、整備センター自体がどれだけお金を出して、その運営状態はこうで今の赤字状態になっているという説明をやはり出していただかないと、今の定性的な説明では誰も理解できないと思うんです。だから、やっぱり整備センターにきちんとそれだけのバランスシートといいますか、これまでの運営の経歴、履歴をちゃんと出さしていただいて、これから5年の契約をするにしてもそれをちゃんと理解できる状況の数値を提示していただかないと、なかなか議会は理解が難しいと思うんですよ。その辺はどうなんでしょうか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）すみません、ちょっと訂正といいますか、もう一度確認なんですけど、3自転車駐車場の建設費用が6億4,500万円ということになってございます。全体の事業費が6億4,500万円でございます。そのうち整備センターの負担が4億8,000万円、これは整備センターが負担することになってございまして、これの原資というのは利用者から得られる収入を見込みで立ててございまして、当初4億8,000万円の収入ということで見込みを立てられたものでございます。あと、国からの補助金が7,000万円ということになってございまして、あと残りの差額の9,400万円が町負担ということで、それについては建設当初負担金ということで、3駐車場合わせて9,400万円というのを負担しているところでございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君）ちょっと私のほうからもお願いしたいんですが、今、当初の建設費用とか町負担の9,400万円とか、その辺ご説明いただきましたけれども、各議員のほうからも累積赤字5億円になったということについての数字的な詳しい説明といいますか、その根拠となるような資料を提示していただきたいという意見が出ておりますので、その辺については、また後日資料を提示していただくことはできますか。泉谷都市整備部長。

都市整備部長（泉谷 徹君）提示はさせていただきます。年間の3駐輪場を合わせた収入と支出と、元利償還があれば元利償還ぐらゐの範囲でしたら、多分センターも用意はできると思います。

ただ、細かい運営費につきましては、センターも一括でやっておりますので個々の収入、支出がわかりづらいというところで、明確なところで金額を提示するのはなかなか難しいと聞いていますけれども、今私がお説明させていただいたように、収入と経費、そのうちの元利償還金程度でしたら多分提示できるのかなと考えてございまして、再度センターと協議させていただきまして、何らかの形ではご提示できるように資料を整えて、皆様方にまた後ほどご配付させていただきたいと考えてございます。

議長（坂上巳生男君）その辺ぜひお願いしたいと思います。

ほかに質疑があれば承ります。阪口議員。

4番（阪口 均君）先ほど、部長の話の中に人員の配置をこれから検討していくということがありましたけれども、今現在、3駐輪場の整備センターの人の配置と、あとシルバーの方とでやられていると思うんですけれども、そこら辺の人数はどういう配置になっていますか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）管理されている方の配置人員につきましては、通常、各施設に1名の方が常駐でおられます。あと、シルバーというのは基本的に雇われていないというか、配置してございまして、それは我々が管理しています自転車の保管所とちょっと一緒になっているか……。場所は南駐車場の裏ということになってございます。そこは我々道路課が直接管理している分になりますので、そこにはシルバーの方が常駐でいらっしゃいますけれども、そこと自転車駐車場とは別個ということになってございまして、自転車駐車場につきましては各施設常駐で1名ということになってございます。その雇われている方というのは当然整備センターで雇われている方になりますので、その費用というのは町からは一切支出してございません。

以上です。

議長（坂上巳生男君） 阪口議員。

4 番（阪口 均君） そしたら、あの窓口に座っている人は、シルバーの人はいないということの理解でよろしいんですね。

議長（坂上巳生男君） 山原道路課長。

道路課長（山原栄次君） シルバーの方ではないということで、よろしくお願いします。

議長（坂上巳生男君） 阪口議員。

4 番（阪口 均君） わかりました。

あと、利用率が非常に低いことでびっくりしているんですけども、月決めと一時預かりとありますよね。例えば南でしたら、838というのは一時預かりと月決めとを足しての数字ですか。どういう出し方しているんでしょうね。

議長（坂上巳生男君） 山原道路課長。

道路課長（山原栄次君） この利用率につきましては月決めの部分になるかというふうに考えてございます。一時につきましては、台数の把握というか数はつかんでいるでしょうけれども、積み上げる数字というのはちょっと難しくなつてこようかというふうに考えてございますので、全体の駐輪台数に対して月決めが幾らということになつておろるかというふうに考えてございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君） 阪口議員。

4 番（阪口 均君） わかりました。

あと1点なんですけれども、東駐輪場に民有地が入っているんですよ。515万円ですか、町の支出があるんです。単純な考え方ですけども、東駐車場が27.5%の利用率にかかわらず、民有地を使う必要があるのかと。これは入り口が民有地やからしゃあないんやという話かもしれませんが、そこら辺は、普通に考えるとその分を……。どうぞ。ちょっと教えてください。

議長（坂上巳生男君） 山原道路課長。

道路課長（山原栄次君） ご指摘のとおり、東駐輪場につきましては、要は個人の方から借地ということでお借りして経営しているものでございます。ただ、その費用につきましても、町のほうから支出するような形はとってございますが、費用については整備センターから町がいただいて、それを町のほうから所有者の方にお渡ししているということで、費用自体は100%整備センターからの負担ということで、町からの支出は今のところはございません。

以上でございます。

議長（坂上巳生男君） 阪口議員。

4 番（阪口 均君） 東駐車場の全部が民有地ですか。

議長（坂上巳生男君） 山原道路課長。

道路課長（山原栄次君） 全て民有地ということで、借地になってございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君） 阪口議員。

4 番（阪口 均君） 東駐車場を残して北を廃止するという今、話ですね。町が民有地の所有者に対してお金を出しているけれども、整備センターから金が入っていますよという話ですね。これも、例えば北を残して東を廃止したらセンターの支出は500万円減りますよね。その考え方をもつてすれば、赤字幅というか収入がふえて損が減るはずですよ。そういう考え方は持たないでしょうか。

議長（坂上巳生男君） 山原道路課長。

道路課長（山原栄次君） それにつきましては当然検討させていただいている内容でございます。

ただ、東自転車駐車場のまず借地につきましては、今後、所有者の方と協議させていただいて一定借地料を軽減する方向で進めたいというふうに考えてございまして、これにつきましてはもう地権者の方とは事前に交渉もさせていただいて、一定、軽減することに関してはご理解いただい

るところというふうに理解してございます。

あとそれと、当然借地になってございますので、その費用というのはかかっているのは当然なんですけれども、全体して入と出のバランスを考えた中で一応整備センターと協議した中でどちらが収益を上げやすいかということになりますと、借地でも東駐輪場のほうが今後収益を上げていく見込みがあると。なぜかといいますと、北駐輪場につきましては建屋がございまして、当然これから建屋は年数がたちますと維持管理経費というのがかかってまいりますし、東駐輪場はカーポート、屋根だけの施設になってございますので、維持管理費についてもどちらが今後費用がかかってくるかということ、やはり北のほうが維持管理経費がかかってくるということで、全体の収支を考えた場合、北のほうが赤字というか、経営が厳しいというようなところで我々も考えてございます。今回、どちらをということで選択は当然検討しましたけれども、結果として北を廃止して東を存続するという方向で協議が調ったところでございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君）重光議員。

2番（重光俊則君）やっぱり公平に考えておかしいですね。500万円実際に民有地を、その土地が利用者が多い少ないというものを考えるても、両方とも利用率が20数%なんですよ、東も北も。それで500万円毎月土地代を払うということが今までの大きなマイナス要因になっていたということを見ると、この500万円ということは町の出費なんですよ、結果的に。いわゆる整備センターから払っていることになるけれども、結局は整備センターの赤字分は町が負担せなあかんというから、結局は町が500万円払っていることになりますやん。整備センターが払っているといっても、結局はそれは経費として町に請求されないんですか。その土地代というのは整備センターが払っていて、熊取町は一切関係しないということですか。その500万円は整備センターの経費には入らないということですか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）まず今、お金の流れとしましては、約500万円の借地料ということになってございますが、それは整備センターから町のほうにまず収入として入ってございます。そのままの金額、100%を町から使用者の方に借地料ということでお渡ししているということで、町からの支出というのは一切ございません。

あと、ちょっと私の説明が悪かったのかもしれませんが、累積赤字の5億円というのは今回……

（「質問の趣旨が違いますやん」の声あり）

道路課長（山原栄次君）今のところ、町からの支出というのは一切も……

議長（坂上巳生男君）重光議員。

2番（重光俊則君）そこは聞いてませんやん。

今、整備センターから500万円を町がもらって、町が借地料を払っているということでしょう。

町にとってはプラス・マイナスないじゃないですか。整備センターの500万円というのは整備センターが寄附してくれているんですか。それ、整備センターの500万円というのから町に入る500万円は、整備センターにとっては経費ではないんですか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）当然、整備センターの経費ということで計上されてございます。

議長（坂上巳生男君）重光議員。

2番（重光俊則君）ということであれば、北と東を比較すると東のほうが500万円経費が高くついているということになりますね。それはそうでしょう。だから、その状態で北と東どっちを残すかということになったら、阪口議員がおっしゃった経費の500万円がかからない東をなくして北を残すというのが、土地の利用がどうのこうの関係なくだったら、公平に熊取町にとって何が負担が少ないかということ、熊取町は入ってきたのを出すから負担がないよと言っているけれども、結局は整

備センターの経費として赤字になった分は最終的には熊取町が持たないあかんわけでしょう。持たないの。一切持たないの。そんな不思議な契約があるんですか。整備センターが全部持つ、そんな契約なの。非常に理解しにくい。

議長（坂上巳生男君） 泉谷都市整備部長。

都市整備部長（泉谷 徹君） 先ほどもご説明させていただいたように、一番最初に一定の金額の負担をやってございます。その後につきましては全て整備センターが運営をやられてございます。その運営については、全て整備センターが最初の収入に満たない分につきましては自分のところの運営ミスというところで、整備センターが全てをかぶるというところでございます。ですから、現在5億円ちょっとの累積赤字が出てございますけれども、これ自体も整備センター、一切町のほうはそれに対しての負担はございません。今後も、もしか2駐輪場になって赤字が出た場合でも、町のほうは一切負担はございません。

これがなぜできているかといいますと、先ほどご説明させていただいたように、全国展開をしている中で都市部でかなりの黒字が出ていると。それが全国的なセンター全体として運営は成り立っていると私どもは聞いてございます。ただ、ここ2、3年、赤字運営のところについては地元自治体に持っていくという方針は立っているというところでセンターから聞いているところでございますので、今後赤字が出てもこれまでの赤字についても、町として一切の負担はございませんし、今後もございません。

以上でございます。よろしくお願いたします。

議長（坂上巳生男君） 重光議員。

2番（重光俊則君） そういのであれば、整備センターを全部やめて、町で運営をやった場合にシミュレーションをしてみてもらえませんか。町でこれを整備、管理した場合にどれぐらい金がかかるか、私は、その500万円は整備センターが持ってくれているということであればいいですけど、じゃ、ここで土地を全部返してくださいといつでも言えるわけですよ、今15年済んでますから。その場合、5億円抱えたまま整備センターは土地を返してくれるんですか。

例えば、南の駐車場がありますよね。南の駐車場をホテル誘致に使いたいというような考え方があった場合、すぐに土地を返してくださいと言ったら、整備センターは土地を返す契約になっているわけですね。いつでも返せるわけですね。だから、東を整備センターは500万円ずつ払ってくれているわけですけど、あとはそれぞれ契約が終わっているわけやから、熊取町が土地を使いたいときにはいつでもそれは返してもらえると契約になっていますか。

議長（坂上巳生男君） 泉谷都市整備部長。

都市整備部長（泉谷 徹君） いつでもという内容ではございません。一定期間が過ぎた段階で町に移管することができるになっていますので、その一定期間は何年かというたら15年ということで、覚書で結んでございます。ですから、きょう言うてあした返せというわけにはいきません。そこはやっぱり協議をやった中での移管になってこようかなと考えてございます。

ただ、今回は、北駐車場については今後、私どもがそのまま引き取ったところで黒字がなかなか見込めないという段階の中では、まずは潰していただいて、その底地が町の土地ですから、それについて有効活用を図っていきたいというところもございまして、今回総合的に考えた中では、今後の運営状況を見た中で、先ほど課長からもご説明がありましたけれども、北より東を運営していくほうが駐輪場としては黒字になるであろうというところでセンターのほうからは聞いてございます。

そんな中で、私どもも北をセンターが費用を持って潰すことによって町の負担がなくて、後の土地は町の土地ですから有効活用が図っていけるのではないかなというところもございまして、今回、北を廃止というところで協議を進めているところでございます。

以上でございます。

議長（坂上巳生男君） 重光議員。

2番（重光俊則君）15年は経過したわけで、その継続契約、例えば南と東は15年経過した後も継続して15年間の契約を結んだわけですか。それとも何年の契約を結んでいるわけですか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）それにつきましては、今回ご説明させていただいた以降に整備センターと、今回、期間も変更になりますので、その辺の期間も定めてというか明記した中で変更の覚書をおおむね約5年ということで定めた中で締結させていただく予定でございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君）重光議員。

2番（重光俊則君）ということであれば、整備センターを切った場合、その運営シミュレーションをして、お金は5億幾ら残ってようが整備センターの責任であるとしたならば、熊取町が土地活用するために全部返してくれと言ったら返してくれる状態にあるのであれば、この運営を整備センターに任さずに町が運営した場合どうなるかというシミュレーションをぜひしていただきたいと思うんですよ。そうした上で、先ほど阪口議員がおっしゃった500万円の土地を借りたままの状態、そうなった場合は熊取町が500万円を払わないといけないようになりますよね、借り上げた場合は。そういうことを加味した上で最終的に3カ所の駐輪場をどうするかということを検討しないと、なかなか納得できる答えにならないんじゃないかなと思うんですよ。

そういう意味で、やはり東を500万円払いながら残すというのは、整備センターが勝手にやることやから構へんのやという位置づけにあるとは思えないんですよね。やっぱり3つの土地を熊取町がどう有効活用するかという検討なしに5年間このまま北だけなくしていくというのは、やはり今、駅前の整備だとかホテル誘致とかその辺を検討しているときに、こういう大久保の駅周辺の大きな土地をそのまま駐輪場で残すのがメリットがあるのかどうかということを含めて検討していただかないと、今から行財政改革等があるわけですから、そのテーマの一つにもなるわけですから、その辺を明確にして、町民にこういう方向でやるんですよということを明確に示していただかないとなかなか納得できないと思います。

その辺は、そこを含めて白紙にして検討していただいて、整備センターが継続した場合、それと町がこれを引き取って運営した場合どうなるのか。土地活用について、5年間このままこれらの土地が使えないようにしたほうがいいのか、民間の駐輪場がちょっと駅前にありますけれども、そういうところを含めて合体してやることができるかどうかも含めて、駅前整備計画の中でやはりその辺も検討していただかないと、5年間この土地をそのままの状態にするというのがいいのかどうかも含めて、ぜひまとめて説明していただきたいと思います。これは要望にしておきたいと思います。

議長（坂上巳生男君）二見議員。

7番（二見裕子君）ちょっと確認なんですけど、利用率何%であれば黒字になるのかとかいうのはつかんでおられるんですか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）パーセントで黒字赤字というのはちょっと難しいかというふうに考えてございます。というのは、各施設によって、先ほども説明させていただいた中に、まず維持管理経費というのが各それぞれの施設でかかってございます。それは人件費だけじゃなくて、当然光熱水費ですとか、あと施設のメンテに係る費用ですとか、それはかかってございまして、その金額というのは施設によって個々ばらばらということになってございますので、一定どれぐらいまでいくと赤字か黒字かということのパーセントで出すのはちょっと難しい状況かと思っております。

ただ、結果としまして今、南駐輪場は黒字ということで報告受けてございまして、東と北については赤字の状態ということで報告は受けているところでございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君）二見議員。

7番（二見裕子君）駐輪場ですので当然バイクも含めてということですよ。南の駐輪場は、たしか浪

商とかは安くとめさせていただいているとかで、収入もその分、生徒さんがどれだけ使われているかわかりませんが、もし100台ぐらいがこの中に入ってきているのであればかなり減収にもなっているのかなと思うんですけど、その辺はどうですか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）南駐輪場につきましては、確かに浪商の生徒さんですとか、あと体育大学の生徒さんとか、かなりの数がとめていただいて、それは浪商さんとかとお話しさせていただいて、できるだけそこへとめていただくということをお願いしていると。逆に利益が落ちるというよりも、その駐輪場の利益が通常の、3駐輪場を比べていただいてもわかるように、利用率が上がっているというふうにプラスのほうに我々は考えてございまして、そのおかげで南については黒字の経営ができていているというふうに考えているところでございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君）二見議員。

7番（二見裕子君）わかりました。じゃ、もしかして40%でも黒字になっているかもしれないということはあるということですよ。10%の100名ぐらい生徒さんがとめている分収入が少なくても黒字になっている、3,000円かかるところが1,000円でとめられていても人がたくさん借りたほうが黒になるというのであれば、50%という利用率の黒字というのは余り不確かということですか。

議長（坂上巳生男君）泉谷都市整備部長。

都市整備部長（泉谷 徹君）学校が使われているのが、約400台、枠でとられています、学校の場合。2階の一定の枠でとられています。そういうふうにセンターからは聞いています。台数でなくて枠でとられているというところで聞いてございます。

それで、もともと南駐輪場に学生を集めたというのは、一番最初はばらばらで借りられていて、いろんな道でいろんな苦情が発生してございました。それで一定、南の駐輪場に皆さんを集められて、そこで先生の指導、また一緒の方向を向いて一緒の道を行いますので、その道でも先生方が立たれて指導をやるというところから、南駐輪場のほうに学校を集められたと聞いてございます。

ただ、やはり一定の時間内に朝は学生が行かれますので、近隣の方々からはやはり危ない状況のときもあるということは聞いてございます。これをまたばらかすというようなところでは、今のところ町としても交通安全対策上好ましくないというところで考えてございます。

それとあと、駐輪場施策につきましては、今全部の駐輪場で約1,300台弱ぐらいとめられてございます。これをどこに確保していくかというのがやはり一番大きな問題となってございます。それで、駐輪場施策は不法の自転車をその辺に置くということのないように始めた施策ですから、そのようなことのないようにやっていかなければならないと考えてございます。

それで、重光議員からもご意見をいただいているんですけども、それらにつきましても今後どんな運営が一番いいのかということもございまして、やはり南につきましては1,620台が確保できるような大きなところですので、これをいきなり今利用されている800台の方を分散するのはなかなか難しいところもございまして、まずは学生をどこの駐輪場で使っていただくかということになれば、やはり府道を通って学校まで行っていただくというところでは南駐輪場は外せないのではないかなと現在のところは考えているところでございます。

そんな中で、先ほど議員からもあったように、後の土地利用等も含めまして、今回は北の駐輪場を潰して跡地利用に町の土地として使っていきたいというところで最終的な判断を下したところでございますので、ご理解のほどよろしく申し上げます。

先ほどご意見のありました数値的なものにつきましては、整理をさせていただいてまたご配付をさせていただきたいと考えてございますので、よろしく申し上げます。

議長（坂上巳生男君）二見議員。

7番（二見裕子君）400台の枠はとっているということですけども、全部使っているということではないですよ。そこはつかんでないですか。学生が幾らで借りてはるかというのは、町としては把

握されていますか。

議長（坂上巳生男君）山原道路課長。

道路課長（山原栄次君）ちょっと確認して、またご報告させていただきたいというふうに考えてございます。

以上です。

議長（坂上巳生男君）渡辺議員。

8番（渡辺豊子君）先ほどシミュレーションの話も出ていたんですが、南駐輪場だけを残すという、そういう考え方のシミュレーションはできないでしょうか。全て入って1,620台あるんですよね。全て今利用しているのが1,300台と言うてましたよね。だから、南だけを残して、あと東と北をもう廃止する。そしたら、東に民地を借りている借地も借りなくて済むわけです。北のほうはまた再利用できる。センターにしても1カ所運営するほうが黒字になるかと思っておりますので、そういった面で、もう南だけを残すという形でシミュレーションしたらどうでしょうか。

議長（坂上巳生男君）泉谷都市整備部長。

都市整備部長（泉谷 徹君）議員ご提案のとおり、経営上からだけ考えますと、私どももセンターからもそういう意見は出てございます。いろんな協議の中でシミュレーションを組んでセンターからの意見を聞いた中では、台数からいきますと1,620台の中に約1,300台は収まるといって、算数上はいけるんですけども、やはり朝晩の駐輪場の状況を見ていますと、そこに集中してそこから分散していくという、蜂の巣のように蜂がだあっと寄ってきてばあっと出ていくというような状況では、やはり周りの道路がそれに耐えられるかどうかというのが、一番大きな問題でございます。

先ほどもご説明させていただきましたが、現時点でも周りの住民からは、大久保のちょうどガソリンスタンドを越えた信号のところぐらいまでの間はかなり危ない状況のときもあると。自転車でも学生がだあっと出てきますので、そんな中で、これのあと約1.5倍の台数になってきますので、なかなか道路状況がもっと広い道路に面しておればそれほどそういう問題もないのかなと思うんですけども、町としても、南もございますが、山側から来たお客さんについては東を利用される方が多数おられます。その辺のサービス面も加味して道路状況も考えた中では、やっぱりセンターと協議した中でも2駐車場を残すほうがいいという提案もいただいた中で、町も後の土地利用を考えて北を選択したところでございます。

以上でございます。

議長（坂上巳生男君）ほかに質疑はありませんか。阪口議員。

4番（阪口 均君）学生の値段が違うというのは今僕初めて知ったんですけども、収入の3,900万円というのが、平成27年度とはいえ非常に何かつくったような数字のような気がしてならないんです。根拠を申し上げますと、29年3月時点で大体1,300台ぐらいとめられているんですね、3カ所で。400台が学生枠で、これは値段は今わかりませんということでしたけれども、残りの900台、これ、ひょっとして1,000かもわかりませんが、学生がどれだけとめているか、枠だけの問題ですから1,000かもしれませんが、仮に900台、平均、バイクと自転車で2,500円ぐらいでしょうね、1カ月当たり。と思います。900台掛ける2,500円掛ける12カ月でいくと、ざっと2,760万円ぐらいなんです。400人枠掛ける、これはもう勝手に僕が学割で半額ぐらいにしましたけれども、1,300円としたら52万円ほどしかないんです。年間に直すと約100万円ぐらい。これ足してみると、2,860万円ですから2,900万円ぐらいにしかなれへんなど。1,000万円の差はどないしてつじつまが合うのかなど。

だから、先ほどから重光議員の経費、収入、予算の成り立ちということの中にこのこともちゃんと実証しておいてほしいなというふうに思いますので、これは私からの要望です。

議長（坂上巳生男君）ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。以上で質疑を終わります。

これをもって、自転車駐車場の今後の運営についての件を終了いたします。

以上で、本日の案件は終了いたしました。

その他、何かご報告等があれば承ります。

(「なし」の声あり)

ないようですので、以上で議員全員協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

(「14時35分」閉会)

以上の協議会の次第は議会事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

議長

坂上巳生男